



千葉県立松戸南高等学校

科学研究部 Team Quad-E

千葉県松戸市紙敷1199

「地域の生態系保全のための技術の研究 ～パートナーシップでSDGsを達成したい～」



Action

生態系保全活動は地域の団体や学校などを中心に盛んになった。しかし実際にビオトープ作りなどをやってみると外来種ばかりになってしまったり、水枯れなどで水生植物や動物たちが死んでしまったりと中々思うようにならない。保全活動で直面する様々な問題を解決のため、私たちがビオトープづくりに関する様々な技術に挑戦し、様々な団体に技術や知識の提供をすることで、生態系保全活動を応援したいと考えた。千葉県では絶滅危惧種となっている、ヘイケボタルやトウキョウサンショウウオ、フジバカマやガシャモクといった在来種の域外保全を行いながら、地域の活動団体などから依頼を受けて、これまでに電源を必要としない、水を汲み上げるためのポンプを開発設置したり、井戸を掘ったり、生物調査のお手伝い（上記写真）など行っている。また、水生植物を守りながら育てるケージを作り、手賀沼の生態系環境を保全するために実験に取り組んだり、遺伝的多様性を保全するための基礎研究のためかずさDNA研究所に協力して頂き、ヘイケボタルのDNA分析に取り組んだりと幅広く活動している。